

まちの話 だい

12月3日 | 迫力のイノシシが完成

まちおこしグループ「王子田会」による恒例の「ジャンボ干支」が、大代地区の県道81号沿いに完成し、多くの人が記念撮影に訪れています。

3回目目の「亥」となる今回は、体長約4mの雄と合わせ4匹の一家が登場。竹や間伐材の骨組みに、軽トラック2台分のワラで肉付けされています。メンバーが約10日間かけて製作した同作品は、3月8日まで展示される予定です。



12月15日 | 技術を絶やさめのために

大井川^{れんだい}輦台越保存会が、かつて川越人足^{かわごしにんそく}が使用していた「権三^{ごんざう}わらじ」の技術を継承するため、わらじ作りの基礎となる縄ないの研修会を行いました。

権三わらじとは、川底に足を踏み入れた際に入る小石を取り出しやすいように、足裏に余裕がある作りのわらじ。現在は製作できる人がいないため、同会は現存する権三わらじの作りを研究し、技術の復活に取り組んでいます。

1月1日 | 平成最後の走り初め

恒例の「みんなで走ろう! 元日マラソン」が、大井川マラソンコース・リバティで行われました。

42回目を迎えた今回も、走り初めを楽しもうと約2,300人のランナーが集合。2・5・10kmの各部門に分かれ、号砲とともに一年の健康と幸せを願い、ゴールを目指して爽やかな汗をかきました。早朝の引き締まった空気の中、参加者にとって清々しい新年のスタートとなりました。





12月19日 | 明るい新年を祈って

北中学校の3年生が、恒例の門松作りに挑戦しました。この行事は、日本の伝統を継承するために、地元の敬老会や地域の人、PTA 役員などの協力を受け、30年以上続いています。生徒たちは講師の指導を受けながら、竹をのこぎりで切ったり、飾り付けをしたりして門松を作り上げました。

制作した門松は、市役所などの公共施設に寄贈され、新年を迎えるために飾られました。

12月18日 | 高校生お仕事レポート

FM 島田「高校生、島田のお仕事現場に行く！」の番組収録で、高校生5人が市役所を訪れ、市長と若手職員へのインタビューを行いました。

この番組は、市内の高校生が、さまざまな仕事現場を訪問。そこで働く人たちに、仕事の内容ややりがいなどを取材し、その感想を放送しています。若い世代に、将来島田市で働く姿をイメージしてもらおうと、現場から生の声を届けています。



12月19日 | おいしくなあれ

冬の澄んだ青空の下、認定こども園島田中央幼稚園で、恒例の餅つき大会が行われました。

保護者が蒸した餅米をこねた後、大きな「ヨイショー！」の掛け声とともに、三角巾をかぶりエプロン姿の園児が2人ずつ交互に杵を振り下ろしました。子どもたちは、杵の重さと餅の粘りに驚きながらも、真剣な表情で餅つきに挑戦。一足早い正月気分を、味わいました。